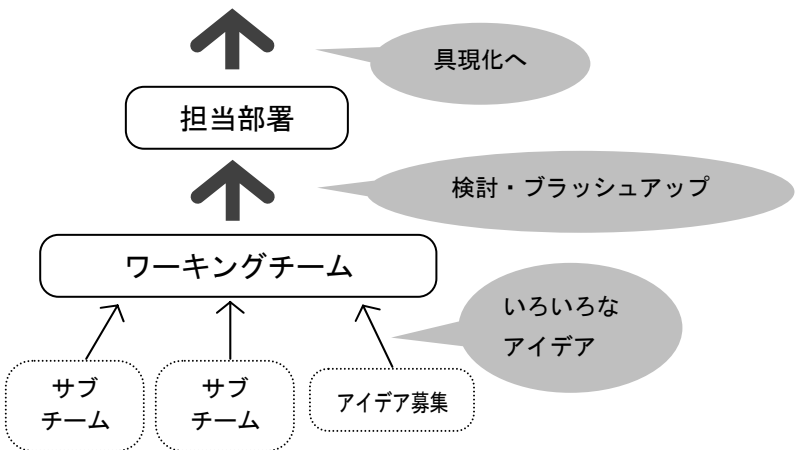


アイデア提案書

| | | | |
|---------|---|-------|------------|
| 提案番号 | No.18-2 | | |
| 提出年月日 | 平成30年8月14日 | 受付年月日 | 平成30年8月14日 |
| 所属 | | 職名・氏名 | |
| 提案件名 | ふるさと納税特命ワーキングチームの創設 | | |
| 提案の要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 市民サービスの向上に役立つもの <input type="checkbox"/> 事務能率が向上するもの <input type="checkbox"/> 経費の節減・収入の増加に資するもの <input type="checkbox"/> 行政事務運営の革新となるもの <input checked="" type="checkbox"/> 本市のイメージアップに係るもの <input checked="" type="checkbox"/> その他公益上有効であるもの | | |
| 関係部署 | 各部署 | | |
| 現状及び問題点 | <p>(実施の必要性について具体的に)</p> <p>ふるさと納税制度は、市の財源確保の大きな方法の一つであると思うが、現在の1係での対応では職員の限界もあり、全庁的に取り組み続けるテーマであると思う。それに加え、ふるさと納税型のクラウドファンディングも各部署で取り組んでいるが、クラウドファンディング自体がお金を生み出す魔法ではなく、魅力あるテーマやコンテンツにしかお金が回ってこない仕組みであることを考えて事業形成する必要がある。</p> <p>また、「レター作戦」の実質的な効果が不透明であることから、PR方法についても検討の余地はあると感じる。</p> <p>さらに、ふるさと納税制度はマスコミ、メディアともに関心は高く、ふるさと納税の取り組みでその自治体への評価などへもつながる一面がある。</p> | | |
| 提案の内容 | <p>(実施の方法について具体的に)</p> <p>市全体の施策形成を行うとき、特に広い視野でのアイデアを反映させようとした場合に、単独の部署で実施するには限界がある。特にふるさと納税は、全庁的に返礼品やPR方法のアイデアを広く集め、いろいろな意見でディスカッションするべきと考える。</p> <p>そこで、このチームを創設し大きくは返礼品のアイデアとPR方法の2点について検討する。検討には各部署で実施されるふるさと納税型のクラウドファンディングも含まれる。</p> <p>具体的なチームとしては、5から6人程度のいろいろな世代で構成され、それぞれのメンバーが、サブチームかいろいろな職員等からアイデアを集めることができることにする。</p> <p>担当部署の仕事としては、その案から実施策への具現化となる。</p> | | |

| | |
|---------|--|
| |  |
| 期待される効果 | <p>(効果について数量等を具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 返礼品については、品目、寄附額とも10%の増を目指す、などの具体的な成果を設定できる。 ② チーム創設による部署間連携のしくみが作られる。 ③ チームによるディスカッション能力が向上する。 |
| 担当課検討結果 | <p>ご提起いただいたとおり、ふるさと納税制度は貴重な財源であり、全庁的な取り組みが必要であると認識しています。</p> <p>昨今の総務省通知により、返礼品調達価額は寄附額の3割以下とし、地場産品に限るなど、今後、寄附額の減少が危惧される中、PR方法の再検討、特典の掘り起し、開発は必須となる状況であることは間違いありません。</p> <p>また、クラウドファンディングを活用した資金調達についても全国から支援いただけるプロジェクトかどうかを十分に精査したうえで、熱い思いを持った各部署、プロジェクトチームなどに広く活用していただきたいと考えています。</p> <p>各部署が業務上関わる団体や人材、モノの情報、アイデアを共有できれば、新たなPR方法や魅力的な返礼品の開発が期待され、最終的な目標である備前市の魅力発信、またそれに付随して寄附額の増（財源確保）にも繋がるご提案と考えますので、ぜひお力添えをいただければと思います。</p> |

提案事項審査報告書
(アイデア提案用)

| | | | |
|------------------|----|----|----|
| 提案番号 No.18-02 | 所属 | 職名 | 氏名 |
|------------------|----|----|----|

| |
|-----------------------------|
| 提案件名 ふるさと納税特命ワーキングチームの創設 |
|-----------------------------|

| 問題意識 | 創造性 | 有効性 | 効率性 | 費用対効果 | 具体性 | 実現性 | 合計 (総合評定) |
|------|------|------|------|-------|------|------|--------------|
| 4.1点 | 2.9点 | 3.6点 | 3.2点 | 3.1点 | 3.2点 | 3.8点 | 23.9点 |

優秀賞に至らず。

【意見】

- ・チームメンバーの選定には工夫が必要と考えられる。チームメンバーによって、効果的な取り組みとなるか否か大きな差が生じると考えられる。
- ・趣旨としては賛成。今後ふるさと納税の制度をより強化・備前市独自のものにしていく必要があると思う。チームプラス全職員へ意見を募るアンケートなど行っても良いのでは。
- ・単独の部署で実施するには限界があるため、ワーキングチーム等を活用し、幅広くアイデアを集める仕組みを作ることが必要である。
- ・提案内容に同意します。しかし効果が出るのに時間を要するため、まずはプロジェクトチーム制度を利用し、対応すべきと考えます。
- ・昨今のふるさと納税の現状を踏まえると、返礼品目的での納税の増加は見込めないと思います。その中で、ふるさと納税だけに主眼を置くことにどこまで効果が見込めるのかが不明である。また、多方面からアイデアを集めることはいいことだとは思いますが、現状の提案では効率性、有効性に乏しいと感じる。
- ・ふるさと納税やクラウドファンディングなど、財源確保の手段は多様化しており、より効果的な手段を議論すべき必要性が感じられ、提案には賛同できます。
- ・担当課としてもワーキングチームの創設を希望しているところであり、本提案は採用されるべきであると考えます。
- ・必要であると考えますが、ワーキングチームがきちんと業務としてとして取り組むことが必要と考える。有志に頼ると一部の人のサービス残業が増えてしまう。
- ・各自治体が知恵を絞って多種多様な返礼品を用意している状況の中、当市の数人の担当者で行っている現状は厳しい状況であることは理解する。しかしながら、そもそもPT設置要綱があるのだからそれを活用すればよい。
- ・職員は商品開発のプロではないため、担当部署や1つのグループだけで考えるのではなく、ふるさと納税PRの対象毎にワーキングチームやサブチームの構成を変えていけば、よりよい案が出やすいのではないかと思います。